

2 平常時から災害に備える

(1) 男女共同参画の視点の必要性

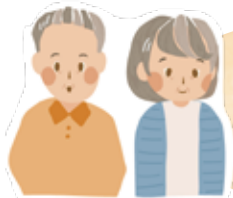


—男性・女性・多様な視点がなぜ必要か—

- ・過去の災害において、避難所等の現場で、男性を中心とした運営の結果、男女のニーズの違いに気付かずに、男女とも困難に遭遇したとの報告がありました。
- ・一方、男女がともに協力し合いコミュニケーションがとれた避難所では、円滑な運営ができたという報告もあります。

(2) 女性の参画を進めるために具体的に何をやるの？

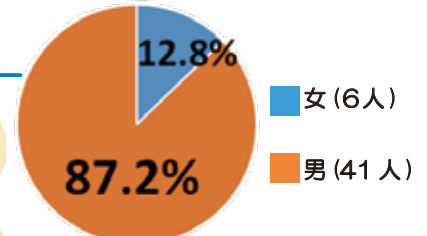
①女性参画の現状は？



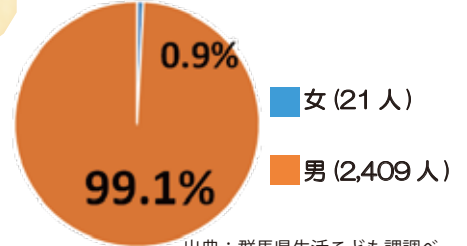
—県の防災分野等における参画状況！—

- ・県防災会議における女性委員の割合は、**12.8%** (6/47人：全国26位)
 - ・自治会長の女性の占める割合は、**0.9%** (21/2,430人：全国最下位)
- 防災対策に必要な意思決定過程に女性の参画が十分確保されていません。

県防災会議における女性委員の割合



県自治会における女性自治会長の割合



出典：群馬県生活こども課調べ (H31.4)

②男性も女性も一緒に平時から防災対策の準備を！！

地域みんなが参画する防災訓練を定期的に行うと、イメージしやすい！女性、子ども、若者が参加しやすい工夫を！

そのために自治会などの地域活動に関わる女性を普段から意識して増やしておくことが大切！！

—日常から、地域で・家庭で男女共同参画を！—

- ・災害時には、災害が起きる前の日常が反映される傾向があることがわかってきました。
- ・そのため、①日常から、女性をはじめ様々な立場の人の人権を守る、②地域防災計画や避難所運営マニュアル作成などの各準備段階から、男女がともに参画することが必要です。
- ・女性は、防災・復興の「主体的担い手」との意識を広めていくことが大切です。

